

技術士 2 次試験に合格して



岩本 達也

(いわもと たつや)

勤務先

池田煖房工業株式会社

技術部技術課

〒001-0012 札幌市北区北 12 条西 3 丁目 1-10

TEL 011-726-1145 FAX 011-726-1158

E-mail t_iwamoto@ikedan.co.jp

■ 専門：衛生工学部門

1. 自己紹介

私は、1969 年(昭和 44 年)に岩内町で生まれ札幌で育ちました。建築設計士を目指し、大学では建築工学を専攻しました。在学中、建築環境工学と出会い、建築設備が建物を快適に使用するための重要な要素であることを学び、新たな魅力を感じ卒業後は東京の建築設備会社に就職しました。

1998 年(平成 10 年)札幌に本社のある現在の池田煖房工業株式会社に現場管理の即戦力として転職しましたが、北海道の厳しい自然環境の中での施工の難しさ、寒冷な気候の中でも建物を快適に使い続けるための建築設備の違い、関東では考慮しないような配管の凍結や積雪対策等、なかなか思い通りにはいかなかった事を鮮明に覚えております。

現在は施工物件における品質管理、検査、社員教育等を主業務としております。

2. 技術士試験受験談

・受験まで

技術士の資格について知ったのは 15 年以上前になりますが、技術系最高峰の資格で大変難易度の高い資格であるという認識程度でした。技術士の方が上司となる部署に異動となり、その活動を拝見していくうち自分も技術士を目指そうと 3 年前から真剣に受験に取り組むことを決めました。

・1 次試験

大学卒業後に触れることのなかった数学の微積分や、バイオに関する問題など、出題範囲の広さと難問題に苦戦し、3 度目の挑戦でようやく合格することが出来ました。

・2 次筆記試験

筆記試験は、記述式の試験で今年度から試験内容の変更もあった為、同時期に受験する会社の先輩や、仲間との情報交換、試験方式変更に伴う説明会に出

席するなどして、新しい試験方式の対策を行いました。また休日には試験勉強に集中するため、図書館の学習スペースを利用する等した結果、2 次試験は初めての挑戦で合格することが出来ました。

・2 次口頭試験

口頭試験前には、技術士の方々による模擬試験開催していただき、口頭試験に対する貴重な意見をいただく事ができました。その甲斐あって本番の試験では落ち着いて受験することが出来ました。しかし、技術的質問が多く答えに詰まる場面もあったため、試験終了後から合格発表までは不安な日々を送ることとなりましたが、無事に合格することができました。

3. 今後に向けて

技術士の試験には合格しましたが、技術士らしいことは何一つできていません。合格したことに満足して立ち止まるのではなく、積極的に日本技術士会の活動に参加し、様々な部門の技術士の方々と交流することで広い視野を持ち、業務に役立て社会貢献出来る様、日々努力していく所存でおります。まだまだ未熟で至らないことも多いと思いますが、皆様からのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

4. 最後に

今回の合格は一人では勝ち取れなかったと思っております。口答試験前に休日を割き模擬試験を実施して下さった技術士の方々、一緒に受験に取り組んだ会社の同僚、試験に協力的な会社環境、試験勉強のバックアップをしてくれた家族、沢山の指導、声援によって合格できた事であり、本当にありがたく感謝しており、この場を借りてお礼申し上げます。

「皆様、本当にありがとうございました。」

技術士 2次試験に合格して



益子 直樹

(ますこ なおき)

勤務先

アースコンサルタント株式会社

技術部

〒078-8234 北海道旭川市豊岡4条7丁目7番13号

TEL 0166-32-3111 FAX 0166-32-2800

E-mail masuko@c-earth.co.jp

■ 専門：応用理学部門(地質)

1. 自己紹介

私は昭和49年に旭川市に生まれました。私がまだ子供の頃は自然が身近にあり、家の前の側溝にはザリガニなどがいました。宅地化していない近くの雑木林も遊び場でした。また、父の同僚の方に自然に関する色々な知識を教えていただき、それが自然現象について興味を持つきっかけになりました。

大学は弘前大学に入学しました。当初気象学に興味があり入学したのですが、数値だけではなく自分の目で確認できるフィールドでの作業に次第に興味湧き、地質の道へ進みました。

修士課程を修了しましたが就職に失敗し、紆余曲折をへて現在の会社に入社しました。正直に言うと学生時代、自分の生まれた地元に戻ってくるとは思っていませんでしたし、ちょうど就職氷河期の最中、そもそも北海道に戻れるとも思っていませんでした。

現在所属している会社は地質調査業がメインの会社です。昭和28年に大野興業株式会社地質調査部が創立されたのが始まりです。その後昭和40年に分社し、大野地下興業株式会社となりました。平成4年には現在の社名となっています。地質調査業者としては老舗になります。

現在の仕事は地質調査業務に従事しておりますが、学生時代の研究がそのまま今の仕事に生かしているとは言い難いです。しかし、フィールドワークや地質学、岩石学の基礎の部分については今も非常に役立っています。

2. 試験について

この業界で働くためには技術士は必須な資格であることは学生時代から知っていました。早くから第一次試験を合格していた同級生もいたため、必ず取得しなければと思っていました。

一方で、弊社技術士は札幌支店に所属していましたが、旭川市で、そして当該部門において身近に手本になる方がいませんでした。

第一次試験合格後は、筆記試験に向けてどのような勉強方法が良いのかわからず3年前には、添削指導の講習も受けました。実力不足もありその時は合格できませんでしたが、技術士の勉強を行うことで業務を行う上でもプラスになっていきました。

昨年は新しく弊社に所属した技術士の添削指導でいままで煩雑だった自分の考えが整理され、結果的に筆記試験合格に繋がりました。

口頭試験はホントにあっという間に終わりました。自分の行ってきた業務に対して、誠実に答えられたことが合格に繋がったと思っています。

3. 今後について

地質調査と一言で言っても、大きく分ければ土質調査と岩盤調査があり、軟弱地盤調査、斜面調査、構造物基礎地盤調査など調査目的に応じて考え方、使う技術、評価手法が当然異なります。学生時代はどちらかと言えば硬い岩盤の研究でしたが、弊社では大小様々な規模の調査を発注者より委託されており、調査内容も様々な業務に従事する必要があります。それゆえ技術士には合格しましたが、「広く・浅く」の技術力しか身につけておらず、まだまだ未熟であることは自覚しています。

今後は技術士取得を出発点と考え、「より広く・深く」を目標に自己研鑽を積み、責任ある技術士になっていきたいと考えています。また、私は旭川市在住の技術士ですが、地元在住の技術士の方だけではなく積極的に他の地方の技術士の方とも交流を深めていき、少しでも諸先輩方に追いつけるよう努力していきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

技術士 2 次試験に合格して



齊藤 孝
(さいとう たかし)

勤務先

岩田地崎建設株式会社

土木部

〒060-8630 北海道札幌市中央区北 2 条東 17 丁目 2 番地

TEL 011-221-2205 FAX 011-221-5432

E-mail t-saitou@iwata-gr.co.jp

■ 専門：建設部門(施工計画・施工設備及び積算)

1. 自己紹介

私は 1969 年(昭和 44 年)に北海道羽幌町の炭鉱町に生まれました。その後炭鉱が閉山し父親が夕張市に転勤となり、高校卒業までは夕張市に居住していました。高校卒業後、北見市の北見工業大学工学部開発工学科に進学して土木分野の基礎知識を学び、現在の職場の前身である(株)地崎工業に就職しました。

分野は違いましたが、私の父親も炭鉱の技術職でしたので、技術系の仕事に対しての憧れはありました。就職時は、バブル真っ只中の時代でしたので、建設業に行くか、設計コンサルタントにするか、迷いもありましたが、この道を選んで間違いなかったと今は思っています。

2. 技術士試験受験のきっかけ

今から 15 年程前の平成 11 年頃、私の技術士についての知識は『そんな資格もあるんだ』ぐらいの感覚でした。私は土木施工の技術者ですので、一級土木施工管理技士さえ持っていれば、特に困る事も無い、他に資格はいらないと考えていました。

そしてこの考えに変化が生じたのは、平成 12 年に道北地方の大規模なダム工事現場に配属になり、JV サブという立場でしたが、スーパーゼネコンの方と一緒に仕事をすることになってからでした。

そこで、私は自分の知識の無さ、視野の狭さ、能力の無さを思い知らされました。自分がいかに勉強をしてこなかったか、知識も無いまま業務をこなしてきたか、いかにそれが重要であるかがわかり、自分が恥ずかしくなり考え方が変わってきました。

この職場で 3 年程経過した平成 15 年、構成会社の仲間から技術士試験を受験しないかと誘われ、自分の技術力も試したい思いもあり、技術士試験を受験しようかという気持ちに初めてなりました。

3. 技術士受験での苦労

お恥ずかしい話ですが、私は 8 回目にしてやっと技術士に合格できました。受験しなかった年もあり、足掛け 11 年かかっています。本当に大変でした。私は、平成 15 年に初めて受験しました。その当時は二次試験に技術的体験論文もありました。その時の試験結果は、体験論文 A、専門 A、一般 B ともうひと息でしたので、いつかは受かる資格だと思いその後の 3 年間は受験しませんでした。

平成 19 年に再度挑戦する気持ちになり、その後 7 年連続で受験しましたが、建設一般の得点が悪く(A 判定は 1 度だけ)なかなか合格できませんでした。勉強方法はインターネットの外部講座と参考書などでしたが、社内技術士による論文添削などは一切しませんでした。例年専門問題の得点が良かったため論文に変な自信があり、『いつかは合格するだろう』と特に対策を講じず年数だけが経過していきましました。

平成 25 年度に再度試験制度が変更となり、チャンスと思う方も多かったと思います。私は逆に焦りました。このまま永久に合格できないのではと思い始め、初めて社内の技術士の方に添削をお願いしました。そこで、「自己満足の論文、個性が無い」などの指摘を受け、論文の書き方、勉強方法など全てを一からやり直しました。試験中もその事に充分注意しながら、論文を書きました。それでやっと合格しました。嬉しさより、ほっとしたというのが本音です。

4. 終わりに

最後に、技術士取得を目指している方に一言。複数回不合格の方は、勉強方法・対策論文に問題があると思います。私のような失敗をしないためにも、変なプライドは投げ捨てて、技術士仲間のアドバイスを受けて下さい。必ず技術士のみなさんは親身になって協力してくれるはずですから。

技術士 2次試験に合格して



西村 力哉
(にしむら りきや)

勤務先

日本高圧コンクリート株式会社

PC事業部札幌支社 設計部

〒060-0062 札幌市中央区南2条西3丁目8番地 北洋札幌南ビル

TEL 011-241-7108 FAX 011-241-7593

E-mail r.nishimura@nihonkoatsu.co.jp

■ 専門：建設部門（鋼構造及びコンクリート）

1. 自己紹介

私は、1977年（昭和52年）に北海道札幌市で生まれ、中でも自然が多い南区で育ちました。小学校では自然にふれる機会が多く、土木の世界に進むことを考えるきっかけとなりました。

平成11年に北海学園大学土木工学課を卒業後、日本高圧コンクリート株式会社に入社しました。

私が所属する会社は、プレストレストコンクリート（PC）製品の製造・施工、橋梁の設計・工事を主に行っております。私はPC橋の建設に関わる部署に配属となり、設計業務を担当しております。

2. 技術士の試験について

私が初めて技術士の存在を知ったのは学生時代の時でしたが、その時は自分が目指すことになるとは思いませんでした。

入社して3年目にある大型プロジェクトに関わることになり、東京で他社の方々とは仕事をする機会がありました。その時、お世話になった技術士の方々は豊富な知識、経験、また難しいことにチャレンジする精神を持っており、レベルの違いを感じました。

その頃から私もそうなりたいと目標を持つようになり、技術士という資格にチャレンジしようと考え始めました。

しかし、その前に取得すべき資格があり、実際は1次試験を初めて受けたのは29歳のときでした。

それから少し時間は掛かりましたが34歳で2次試験の受験資格を得ることができました。

その当時はいつ1次試験に合格できるかわからない不安と闘いながらも、来るべき日の2次試験に備え、日常業務においても先輩技術士に助言を頂きながら「課題・問題点・解決策・今後の方向性」といったことを意識して整理するように心がけていまし

た。

しかし、準備が不十分だったため2次試験を2年連続で不合格となり、まだまだ自身の経験、知識不足を痛感させられました。更に平成25年度からは試験制度が新しくなるということで、どのような準備をすればよいのか手探り状態となり、より不安が増しました。

技術士の試験を受け始めてから約7年近く時間を費やし、特に2次試験の時期は子どもが夏休み中で一番遊びに連れて行きたい時期に連れていけなかったことが辛く、今回で駄目だったら数年は受験を控えようと思いました。

そのようなことを妻に相談したら、「今まで頑張ってきたのだから後悔しないように」と言ってくれました。それからは自分の中でいろいろと考えていたことが吹っ切れて、やれることはやろうと決心しました。

新しい試験制度に対する対策は、今まで以上に勉強時間を確保するしかないと考え、平日は帰宅してから夜中2時頃まで、休日は図書館等に通い、通勤時間と昼休み時間も勉強にあてました。

その結果、ギリギリでしたが筆記試験を通過することができました。口頭試験は緊張しましたが、先輩技術士の方々に模擬面接を繰り返し行って頂いたお陰で無事に合格することができました。

3. 今後について

この資格を取得したことがゴールではなくスタートとして、特に私はまだまだ未熟なのでこれから多くの経験を積み、早く周りの方々に信頼されるような技術士になれるよう日々精進していく所存です。

最後に長きに渡り応援し支えて下さった皆様、ならびにこのような投稿の機会を与えて下さった広報委員会の方々に心からお礼を申し上げます。

技術士 2 次試験に合格して



佐藤 洋己

(さとう ひろき)

勤務先

ドリコ株式会社

水環境事業部 東日本アクア営業部 札幌支店

〒060-0032 札幌市中央区北 2 条東 1 丁目 5-2 サニープリンスシャトー 303 号室

TEL 011-261-9800 FAX 011-261-9770

E-mail hiroki-sato@drico.co.jp

■ 専門：上下水道部門(下水道)

1. 自己紹介

私は、1971 年(昭和 46 年)に函館市で生まれ、高校を卒業するまで函館市で過ごしました。

その後、宇都宮大学工学部に進学し、宇都宮市で大学生活を送った後に、現在勤務しているドリコ株式会社に入社し、現在に至ります。

小さいころ、住んでいた地域は下水道が無く、いつも台所から流れる汚れた水がどこへ行くのか気になっていました。きっと誰かがきれいにしていると思っていたのですが、中学生位にその先をたどると川から函館湾に直接放流されていたことを知り、ショックを受けました。その後、下水道が普及し、川はきれいになりましたが、私が水処理の世界を目指すきっかけになったエピソードの 1 つです。

その後、大学の研究室で水処理の方法を具体的に知ることになり、自然と水処理の会社に入社したいと思い、現在の会社に入社しました。

趣味は地方の図書館、博物館巡り、そして登山やバイクのツーリングです。

2. 技術士試験について

私が技術士の資格を意識するようになったのは会社入社してからだと思います。当時、社内に技術士はおりませんでした。いつか取得したいという考えは持っていました。入社時、東京本社の設計部でしたが、翌年海外部、その後工事の担当となり、どうしても土木、管、電気の施工管理技士の資格が必要でしたので、そちらを優先的に勉強し取得しました。

技術士 1 次試験を受験し、合格したのは平成 16 年度になってからでした。(平成 17 年 1 月)

ちょうどその頃、社内で北海道に営業所を開設するという話があり、翌年平成 18 年に札幌に転勤となりました。落ち着かない中でしたが、いよいよ技

術士 2 次試験に挑戦しようと思い、受験したものの勉強の仕方もわからず全く歯が立ちませんでした。多くの方にアドバイスをもらい、普通の試験勉強ではダメだということがわかりましたので、国土交通省が発行する下水道白書やネットで下水に関する資料を集めて、過去問から予想問題を自分で作成しては解答の案を作ることをして、徐々に試験対策が出来るようになりました。ようやく平成 25 年度の試験で 2 回目の筆記試験を受験しましたが、その年から制度が大きく変わり、体験論文の提出が出願時の小論文となりましたので、これが一番重要な部分でした。先輩技術士の方に添削していただき、こちらは無事に提出出来ました。

筆記試験は、問題はそれほど予想外の出題はありませんでしたが、やはり時間内に書くことが大変でしたので、鉛筆で早く書く練習も必要です。駄目だとあきらめていたところ、予想外に合格となり、口答試験は必死に勉強しました。技術士の方に 6 回も模擬面接していただき、最後は問題なく答えられるようになりました。これは慣れるのが一番の試験対策です。本番でも予想された質問がほとんどでしたので、試験終了時にはまず大丈夫だろうと確信しました。そして、晴れて合格でき、発表の日はとても清々しい気持ちになりました。

3. 今後について

技術士を目指したのは、北海道で少しでも地元の役に立ちたいという気持ちでした。小さい頃は、田舎でもにぎやかで栄えていた町が、今では本当に寂れて人が住んでいない集落もあります。

このままでは札幌以外の地域は本当に町が無くなるかもしれません。私はお金をかけなくても地方で普通の暮らしができるような水循環社会を作りたいと思っています。今後もよろしくお願いします。

技術士 2次試験に合格して



青木 信成

(あおき のぶなり)

勤務先

株式会社 日立産機システム

北海道支社 営業グループ

〒063-0814 札幌市西区琴似4条1丁目1-30

TEL 011-611-1224(ダイヤルイン) FAX 011-611-8433

E-mail aoki-nobunari@hitachi-ies.co.jp

■ 専門：機械部門(流体工学)

1. 自己紹介

東京都生まれですが、物心ついてから高校卒業まで群馬県に育ったので群馬県出身と称しています。

長野県の大学の工学部機械工学科を卒業後、自動車関係の仕事がしたくて神奈川県の人に就職しましたが、配属は空気圧縮機部門でした。そこで空気圧縮機的设计・開発に4年間従事しました。

その後、営業部門に異動と同時に北海道に転勤。以来今日まで30年、空気圧縮機を売り歩いています。

2. 受験に至るまで

技術系営業職として仕事してきたのですが、40代半ば頃から、技術レベル維持(…というか、そのためのモチベーション確保)に苦労するようになりました。マンネリもあったと思います。

考えた末に、モチベーション確保とマンネリ対策を兼ねて国家資格取得を活用することにしました。

最初は、自分の技術的裾野を広げる電気系の資格から始め、エネルギー管理士(電気)、第2種電気主任技術者を取得した後、自分の専門である機械系のレベルアップを果たすため技術士試験に挑戦することに決めました。

3. 受験体験

技術士を目指す同好の士が周囲にいなかったのもっぱらインターネットで情報収集しながら、我流で勉強を始めました。「問題」と「課題」の区別も満足にできない状況からのスタートで、勉強は壁だらけ、知識は穴だらけでした。以下その顛末です。

1年目、2年目：最初の関門の筆記試験はB評価しか得られませんでした。「何かが足りない」のはわかるが「何が足りないのか」がわからないのが大きな悩みでした。転機は、機械部門の技術士諸氏が集うMC会でいくつかアドバイスをいただいてからで

す。目から鱗が落ちるとはまさしくこの場合に使う言葉でしょう。3年目の受験の少し前のことでした。

3年目：アドバイスのおかげで、この年初めて一つだけA評価を得ました。試験には落ちましたが、前年よりレベルアップしたという実感が得られたことが収穫でした。

4年目(昨年度)：試験制度が改正された初年度ということもあって、情報も十分でなく手探りのような状態での受験でした。4年間の積み重ねがモノを言ったといたいところですが、自分の専門そのものといった設問に恵まれたところが大きかったと思います。ともあれ、(ついに…、やっと!)筆記試験突破を果たしました。

□頭試験では、先輩技術士たちのご配慮によって練習の機会を設けていただきました。営業ルーチンとは勝手が違い当初は戸惑いましたが、特訓の成果で当日は何とか無難に終えることができました。

二次試験合格発表当日に技術士会のHPで自分の受験番号を見つけた時には、喜びよりも安堵のほうが大きかったように思います。

4. 今後に向けて

合格に至るまでの節々で、先輩技術士の方々から暖かい励ましの言葉をかけてもらっただけでなく、アドバイスを頂戴したり、□頭試験練習の機会を作っていただいたりと様々な形でご支援いただきました。これら先輩諸氏のご支援がなければここに合格体験を記すことはできなかったと考えております。改めて皆様に御礼申し上げます。ご支援ありがとうございました。このご恩はこれから技術士を目指す方の応援という形で返して参ります。

今後ともよろしくお願い申し上げます。